



# 研究だより

第43号 令和2年3月16日

互いに磨き合い，学び続ける子供の育成（2年次）  
— 個の発達に応じ，メタ認知を促す授業づくり —



## ごあいさつ

校長 きかい 坂井 きとし 聡  
副校長 たると 樽本 みちかず 導和

陽春の候，皆様におかれましては，益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

本年度より，教育研究発表会を隔年開催にし，2年間かけてじっくり研究に取り組んでいます。日常の研究授業・討議をすべて公開したり，参加しやすいよう勤務時間外の「わくわく授業づくりワークショップ」を実施したりして，たくさんの公立の先生方と共に学習指導を考えられるようになりました。全教員で参加し合同の授業研究を行う学校が増えており，「日常の附属の授業や学級づくりが学べてよかった」等，肯定的な意見をいただき，益々公立校に役立つ研究発信の必要性を感じています。

また，メタ認知を促す授業づくりの基盤として，個の発達に応じた支援やUDの視点からの支援を探るべく360°カメラを使った研修も始めました。本校の研究授業を360°カメラで撮影し，それを基に特別支援の視点等から教師の支援を振り返っています。参加された公立の先生方も本校教員も改めて「発達支援・UDの視点」の大切さに気付かされています。

本年度の研究を「研究だより」にまとめました。どうぞ，忌憚のないご意見をお聞かせくださいますようお願いいたします。

## 互いに磨き合い、学び続ける子供の育成（2年次） — 一個の発達に応じ、メタ認知を促す授業づくり —

### 1. 学習意欲の向上をねらいとして

本研究のねらいは、「学習意欲の向上」です。本校では、昨年度、それまでの学習意欲に関わる研究成果や香川県教育委員会が推奨している授業改善の視点を生かしつつ、より一層意欲的に学び、他者と協働しながら考え続ける子供を育成したいと考え、上記研究主題を設定し、本年度も研究を続けています。

県学習状況調査の結果から、子供たちの実態として、「学びに向かう力・人間性等」に含まれる、学習意欲について、学年が上がるにつれて低下するという傾向があることが分かりました。これは、本県及び本校に共通した課題の一つです。したがって、すべての子供が、解決すべき課題や学びの成果を適切に見つめ、学び続けようと意欲を高めることや、主体的に次の課題を見だし、学習課題を設定することなどについて研究を深めれば、子供たちの学習意欲の低下といった問題を解決することにつながると考えたのです。学習意欲が高まることで、子供たちは主体的に課題解決に取り組み、資質・能力を高めていくでしょう。

### 2. 互いに磨き合い、学び続ける子供とは

教科等の学習内容について関心が高まった子供は、課題の解決に向けて、各教科の見方・考え方を働かせて、自ら考えるだけでなく、他者の考えやその理由等を注意深く聞き、自分の考えを再検討し、様々な解決方法を用いて考えていくでしょう。また、その課題解決の後には、自分自身の成長や、他者と協働しながら学ぶことのよさを感じ取るとともに、自信を高め、新たに見出した問題を共有することで、次に解決すべき課題を設定し、その課題の解決に向けて、さらに学び続けていこうとするでしょう。このように、「課題を解決するために、各教科の見方・考え方を働かせて、自ら考え、他者の考えに耳を傾けながら追究し、見いだした次の課題についても考え続ける子供」を「互いに磨き合い、学び続ける子供」と定義しました。

### 3. なぜ、メタ認知に着目したか

「互いに磨き合い、学び続ける子供」の育成に向けて、着目したのが「メタ認知」です。メタ認知を促すことで、各教科で習得した「知識・技能」のことだけでなく、自身の課題への取り組み方といった学びの過程を意識し、協働することのよさを実感することなどを通して、学び方やその価値に気付き、自律した学習者へと近づいていくと考えました。本研究において、「メタ認知を促す」とは、「自分自身の学習活動を客観的に見て、解決すべき課題、自身の学習状況、学びの成果等を捉え、設定した課題の解決に向けて行動を起こしていくよう促す」と考えています。



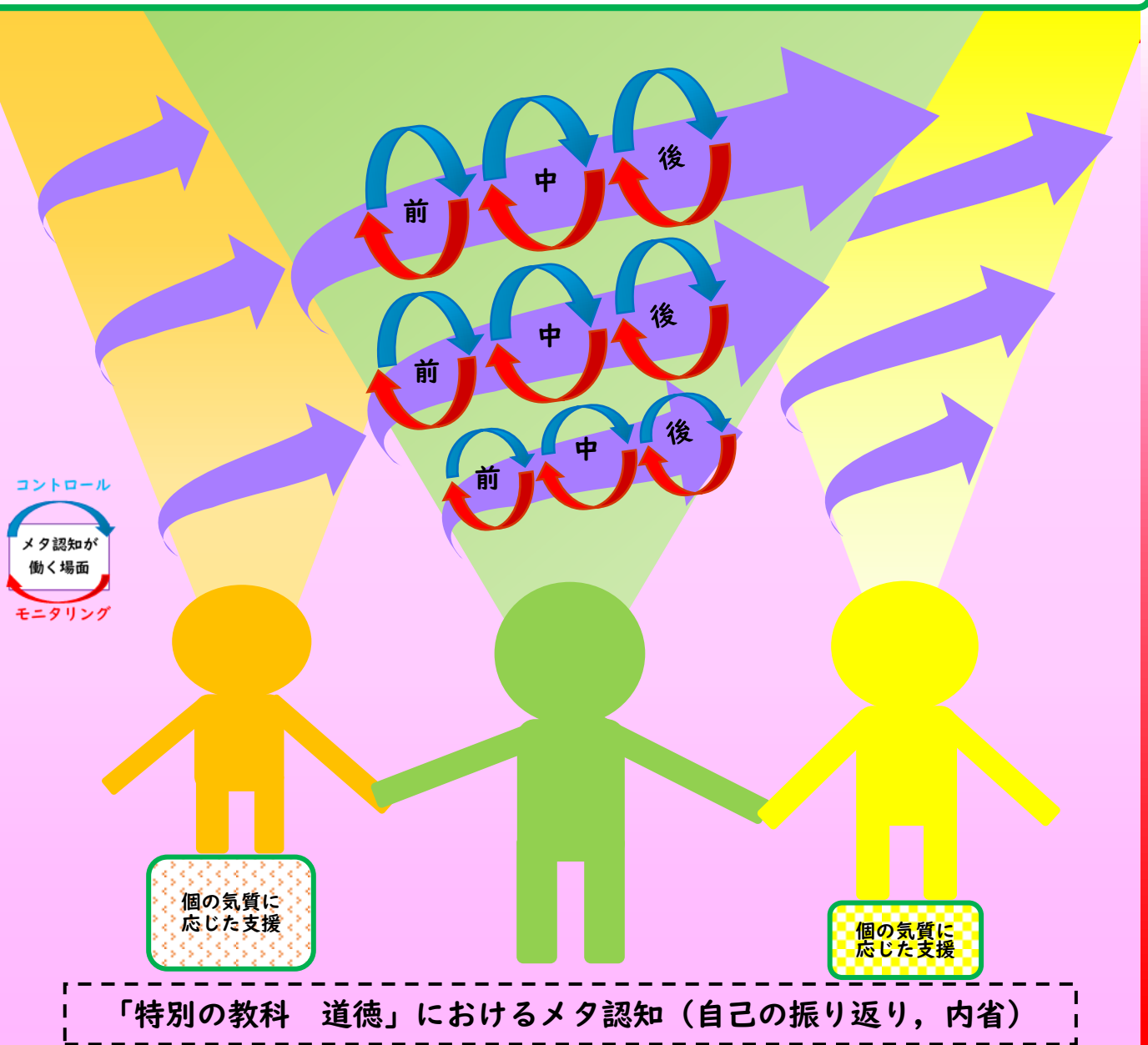
また、本研究では、一単位時間の学習活動を、課題解決中を中心に、課題設定以前と課題解決後の三つの場面に分けて捉え、それぞれの場面ごとに働きかけを行っています。本年度は、昨年度行った研究を基に、働きかけのポイント（次頁参照）を再検討、再構成し、実践を積み重ねてきました。

メタ認知を促す働きかけを考える手がかりとして、教師による観察、メタ認知に関する質問紙調査、教科の特性に関する質問紙調査の結果を総合的に見る、実態把握を大切にしています。また、実際に働きかけを行う際は、学年の発達段階や子供一人一人が本来持っている気質に配慮することが大切です。それらに応じ、学習環境を整える等の合理的配慮を行った上で、メタ認知を促す働きかけを行うと、よりその効果が期待できます。

授業実践を通して働きかけの効果を検証し、メタ認知を促すことが目指す子供の育成に有効であると確かめられました。働きかけを続けていき、最終的には、働きかけなくても子供たちがメタ認知を働かせることができるようになり、主体的に友達と交流し、意欲的に学び続けるようになることを目指し、研究を深めています。

## 互いに磨き合い、学び続ける子供の姿

課題を解決するために、各教科の見方・考え方を働かせて、自ら考え、他者の考えに耳を傾けながら追究し、見いだした次の課題についても考え続ける子供



メタ認知に関わる実態把握（教師の見取り、質問紙調査）  
メタ認知に伴う子供の様相の具体例を表に整理

### 各教科におけるメタ認知を促す働きかけのポイント

課題設定以前	課題解決中	課題解決後
<p>単元全体の流れ図や既習事項を位置付けた掲示物を提示し、課題設定の理由を説明させる。</p>	<p>自分の考えやその理由と、他の考えやその理由を比較し、共通点や相違点に気付くことができるような視覚的支援や場の設定等をする。</p>	<p>教科の特性や発達段階に応じて「学習内容」、「学び方」、「追究したいこと」に関わる、振り返りの観点を明示し、子供の実態に応じた方法で振り返らせる。</p>






第6学年 **国語科** 「物語から伝わってきたメッセージについて語り合おう  
～『海のいのち』～」

学習指導者 西吉 亮二

<p>主張点</p>	<p>本単元の最初に試しの座談会を行い、「メッセージの基となる叙述を見付けることが難しい」等、メッセージをまとめることについての自分の課題を明らかにしました。その後、共通教材『海のいのち』で、メッセージをまとめる成功経験を積み、その成功経験を最終の座談会で生かせるようにしました。</p>
<p>前時までの学び</p>	<p>試しの座談会で感じた自分の課題を解決するために共通教材『海のいのち』の内容について人物関係図を使いながら読んでいきました。その中で見付けた登場人物の生き方が伝わってくる叙述等を基にメッセージをまとめてきました。</p>
<p>〈課題設定以前〉 1 学習課題を確認する。</p>	<p>子供たちと一緒に考えた、自分が選んだ『いのち』シリーズで座談会をするための計画、<u>座談会プラン</u>を補助黒板に示しておき、前時まででどのようなことを学習してきたのか等を説明させながら本時の学習課題を設定しました。</p>  <p>前の時間は『海のいのち』から伝わってきたメッセージをまとめたので、今日は、そのメッセージについて座談会をして、自分のメッセージをよくしたいです。</p>
<p>〈課題解決中〉 2 『海のいのち』を読んで感じたメッセージについて話し合う。 3 自分のメッセージを再考する。</p>	<p>学習課題：『海のいのち』座談会をして、自分のメッセージをよりよくしよう</p> <p>自分が考えたメッセージとその理由について友達と共有する際には、教材文の全文を拡大したボードに一人一人色の違うメッセージカードを集約させた<u>メッセージボード</u>を使いました。また、拡大した教材文には自分がメッセージを考える際の理由となった叙述にメッセージカードと同じ色の付箋を貼るようにしました。そうすることで、メッセージは違っていても理由となった叙述は同じであったり、同じ叙述を選んでいるのにメッセージが違っていたりすることに気が付きやすくなり、自分のメッセージを再考することにつながっていきました。</p>  <p>『千匹に一匹・・・』から僕は命を守る大切さということを考えたけど、確かに海への感謝も感じるね。</p> <p>メッセージは、「命への感謝」だよ。父のこの言葉や与吉じいさの『千匹に一匹・・・』という言葉、太一の様子など、命への感謝を感じる部分がたくさんあるからだよ。</p>
<p>〈課題解決後〉 4 本時の学びを振り返る。</p>	<p>振り返りでは、本時できたこと・分かったこととその理由についてノートに記述した後、単元の最初に行った試しの座談会でメッセージをまとめる際に感じた自分の課題は解決できているかと、その理由についても振り返るようにしました。</p>  <p>友達の話聞いて自分のメッセージに自信がもてたよ。最初よりもメッセージをまとめられるようになったよ。</p>
<p>考察</p>	<p>座談会を行う際に、一つグループを取り上げて座談会のモデルを示す等の工夫があれば、全てのグループで考えがより深まる座談会につながったと考えられる。</p>



<p>主張点</p>	<p>日本人と外国人が共に歩み寄ることによって実現する多文化共生社会のよさを捉えられるように、まず子供たちにとって身近で想像しやすい交流活動を、次に想像しにくい生活支援について追究していく活動を高松市、仏生山地域と二度繰り返す展開にし、特色あるまちづくりについて理解を深められるようにしました。</p>
<p>前時までの学び</p>	<p>多文化共生のまちの実現を目指す市役所や市国際交流協会、仏生山国際交流会の取組を資料を通して調べました。その際、外国人住民の方の思いや願いを関連付けながら、まちづくりに関わる人々が、外国人と日本人の交流する機会をつくったり、外国人への支援を行ったりしていることを捉えました。</p>
<p>〈課題設定以前〉 1 学習課題を確認する。</p>	<p>子供が既習内容をまとめたなるほど・はてなボードを指し示しながら、前時に分かったことを確認しました。そして前時に出た、防災訓練では日本での災害時の対応に慣れてもらうことが大切なはずなのに、十河さんは外国の料理を用意していることが不思議だという疑問を全体で共有し、課題を設定しました。</p>  <p>市役所の防災訓練では、日本の非常食を食べていたけれど、仏生山ではインドネシアの料理を出していて、その理由が分かりませんでした。</p>
<p>〈課題解決中〉 2 十河さんが外国の料理を用意している理由を予想し、話し合う。  3 検証する。</p>	<p>学習課題：十河さんは、なぜ、防災訓練で外国の料理を用意しているのだろう</p> <p>予想の見通しをもつために、外国の料理を用意することには、外国人と日本人の両方にとってのよさがあることを確認し、予想したことをなるほどボードで話し合いました。まず、自分の考えを付箋に書き、班で1枚のボードに貼り出しました。そして、友達のと共通点や相違点に着目し、似た考えを近くに貼るなどしていきながら、考えをつくりました。その後、全体で話し合い、資料で検証していくことを通して、外国人のためだけでなく、外国人と日本人が親しくなって助け合える関係になっていけるよさがあることに気付いていきました。</p> <p>私は、イスラム教徒の外国人が安心して食べられるというよさがあると思うよ。</p>  <p>なるほど。僕は日本人が外国の料理の味を知り、それがきっかけで話すようになって、外国人と仲良くなっていけると思うよ。</p>
<p>〈課題解決後〉 4 学習を振り返る。</p>	<p>今日の「なるほど」シートを使って、なるほど度をメーターに表し、なるほどと思った要因を記述しました。友達の意見と資料を観点として示し、振り返る際に、友達の考えや資料のよさに気付けるようにしました。</p>  <p>〇〇さんが発表した、「日本人が外国のことを知ることで、親しくなって助け合える」という考えになるほどと思ったよ。</p>
<p>考察</p>	<p>日本人と外国人のよさについて話し合う時間を十分に確保したり、多文化共生の意味について共有したりすれば、さらに考えを深めることができたと思う。</p>







第3学年 **算数科** 「表や棒グラフを使って問題を解決しよう」

学習指導者 矢野 利幸

<p>主張点</p>	<p>お楽しみ会の遊びを考えるために、統計的探究プロセスを複数回行える単元構成にすることで、学んだ統計的な問題解決の方法を活用するとともに、統計的な問題解決のよさを実感し、今後の学習や生活に生かそうとする意欲を高めました。</p>
<p>前時までの学び</p>	<p>みんなでしたい遊びの棒グラフから、子供たちは「苦手な人がいるだろう」「男女の差があるかもしれない」と考えました。前時には、苦手な遊びや男女別の観点から班で調べたいものを選択し、棒グラフを作って個々に考察しました。</p>
<p>〈課題設定以前〉 1 既習を整理し、本時の課題をつくる。</p>	<p>前時の学習で分かったことや次に考えたことを振り返りカードを用いて交流し、これまでの学習の流れを示した<u>学びのあしあと</u>と照らし合わせながら、本時の学習課題を設定しました。</p> <div data-bbox="421 801 785 936" style="border: 1px solid orange; border-radius: 10px; padding: 5px;"> <p>男子だけのグラフを作ると、男女のしたい遊びと順番が同じだったよ。</p> </div> <div data-bbox="785 801 1034 949" style="text-align: center;">  </div> <div data-bbox="1034 801 1417 936" style="border: 1px solid orange; border-radius: 10px; padding: 5px;"> <p>前の時間は、男子のしたい遊びについて調べたよ。今日は、他の班の結果を見てみたいな。</p> </div>
<p>〈課題解決中〉 2 班で作ったグラフとしたい遊びのグラフを用いて考察したことを伝え合う。 3 他の班の考察を聞いて、みんなが楽しめる遊びについて考える。</p>	<p style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; text-align: center;">学習課題：他の班の結果を聞いて、みんなが楽しめる遊びを考えよう</p> <p>自分たちが選んだ観点で作ったグラフとしたい遊びのグラフを用いて、見いだした特徴や傾向、考察したことを付箋に書いて交流しました。透明シートを用いることで、グラフを比較しながら、様々な考えがあることに気付きました。</p> <div data-bbox="421 1191 849 1370" style="border: 1px solid orange; border-radius: 10px; padding: 5px;"> <p>男女のしたい遊びのグラフと男子だけのしたい遊びのグラフを重ねると、女子の人数も分かるね。</p> </div> <div data-bbox="849 1191 1034 1415" style="text-align: center;">  </div> <div data-bbox="1034 1191 1417 1370" style="border: 1px solid orange; border-radius: 10px; padding: 5px;"> <p>逃走中を選んだのは男子が多いと思っていたけれど、9人しかなくて意外だったよ。女子も運動が好きなんだね。</p> </div> <div data-bbox="421 1384 849 1527" style="border: 1px solid orange; border-radius: 10px; padding: 5px;"> <p>男女のしたい遊びでは2位だったけれど、予想どおり女子だけではキックベースが少なかったよ。</p> </div> <div data-bbox="1034 1384 1417 1527" style="border: 1px solid orange; border-radius: 10px; padding: 5px;"> <p>キックベースをしたい女子が少ないのは、ボールを蹴るのが苦手だからかな。</p> </div>
<p>〈課題解決後〉 4 本時の学習を振り返る。</p>	<div data-bbox="421 1572 651 1738" style="text-align: center;">  </div> <div data-bbox="651 1572 1417 1738" style="border: 1px solid orange; border-radius: 10px; padding: 5px;"> <p>いろいろなグラフから考えると、みんなが遊びについてどう思っているのかが分かりました。まだ、みんなが楽しめる遊びが決まっていなかったので、次は、まだ比べていないことも比べて考えたいです。</p> </div> <p>「分かったよ・できたよ」と思った理由と、次の時間に取り組みたいことを振り返りカードに書き、本時の学びを確認しました。みんなが楽しめる遊びを決めるために、グラフを比べてもっと話し合いたいという意見が見られました。</p>
<p>考察</p>	<p>まず、結果をまとめたすべてのグラフを同時に提示した方が、みんなが楽しめる遊びを考えたいという追究意欲にあった数学的活動が行われたのではないかと考えられる。</p>





<p>主張点</p>	<p>生活科で育てた経験もあり，普段食卓などで目にする野菜に比較対象を広げることで，身の回りの植物に意識を広げる単元構成にしました。さらに根・茎・葉が分かりにくい野菜も扱うことで，子供たちの探究意欲を高めました。</p>
<p>前時までの学び</p>	<p>ホウセンカ・ミニヒマワリ・ピーマン・オクラの観察を通して，体のつくりに共通点があることを捉え，校庭や学級園にある植物に目を向けました。前は，雑草の観察を行い，どの雑草にも根・茎・葉があることを確かめました。</p>
<p>〈課題設定以前〉 1 学習課題を確認する。</p>	<p>学級園には雑草以外にどんな植物があったかを想起させ，学級園にあったさまざまな野菜について根・茎・葉があるかどうかを全体で確認しました。<u>ふしぎボード</u>にキャベツなどの写真を貼り，野菜については根・茎・葉があることがまだはっきり分かっていないことを視覚的に捉えやすくするなどの工夫をしました。</p>  <p>ミニトマトやトウモロコシには根・茎・葉があるけど，キャベツにはないんじゃないかな。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>学習課題：野菜にも根・くき・葉はあるのだろうか</p> </div>
<p>〈課題解決中〉 2 野菜の体のつくりを予想し，観察する。  3 それぞれの野菜の体のつくりについて全体で話し合い確かめる。</p>	<p>これまで観察してきた植物の根・茎・葉の特徴を<u>チェックリスト</u>としてまとめ，それを基に野菜にも根・茎・葉があるのかを観察しました。<u>チェックリスト</u>があることで，なぜ茎や葉や根があると判断したかの理由がはっきりしました。</p>  <p>緑色で薄くて広がっているから，これが葉だと思うよ。こっちは茎じゃないかな。固いし，根の上にあるよ。</p> <p>その後，班の中で同じ項目でも×をつけたり，○をつけている友達となぜそう考えたか話し合ったり，クラス全体で根・茎・葉がどの部分かを話し合ったりしました。</p>  <p>茎から出ている小さい三角の部分が葉じゃないかな。</p> <p>アスパラガスに葉はないと思うよ。今まで観察した植物みたいに薄く広がっているものはなかったからね。</p>
<p>〈課題解決後〉 4 本時の学びを振り返る。</p>	<p>本時の学習を「分かったこと」「分からないからもっと考えたいこと」の観点で振り返りました。単元全体を通して，<u>振り返りお助けシート</u>を用いて振り返りを行ったことで，本時だけでは解決できていないことを見付け，新たな問題を自分で見いだすことができる子供が増えました。</p>  <p>今日調べた野菜については根・茎・葉があることが分かったけど，他にも野菜はたくさんあるので他の野菜にも根・茎・葉があるのか調べてみたい。</p>
<p>考察</p>	<p>根・茎・葉が分かりにくい野菜を扱ったことで探究意欲を高めることはできたが，メタ認知を促す働きかけは不十分であった。より視覚的に分かりやすい板書について考えたり，何をどのように友達と交流させるか考えたりする必要がある。</p>



第1学年 **生活科**「元気な野菜や花を育てるよ」

学習指導者 安岐 美佐子

支援員 内田 珠世

<p>主張点 (スタートカリキュラムを踏まえて)</p>	<p>本学級のほとんどの子供が幼稚園・保育所等でアサガオを育てた経験があったため、世話の仕方について想起しやすいアサガオを共通教材として用いました。同時に、自分が育てたい植物を育てることで、それぞれの世話を相互に関連させ、自信をもって世話ができると考えました。</p>
<p>前時までの学び</p>	<p>子供たちは、アサガオと自分が育てたい植物が元気に育つようにと、成長の様子等に着目して世話の仕方を考えていきました。アサガオを世話したことで自信をもった子供たちは、自分の植物の世話の仕方に生かしたいと意欲を高めました。</p>
<p>〈課題設定以前〉 1 学習課題を設定する。</p>	<div data-bbox="422 694 742 940" data-label="Image"> </div> <p>前時を振り返る場面で、補助黒板を基に、今までにできたことと前時に考えた本時したいことを整理していきました。そして、本時の課題を設定しました。</p> <div data-bbox="758 817 1412 940" data-label="Text" style="border: 1px solid orange; border-radius: 10px; padding: 5px;"> <p>アサガオに肥料をあげたり間引きをしたりと、お世話ができました。今日は、自分が育てたい植物が、もっと元気もりもりになるお世話を考えたいです。</p> </div>
<p>〈課題解決中〉 2 植物の成長の様子と世話について、観察し、気付いたことを基に話し合う。  3 考えたことを植物の世話に生かす。</p>	<div data-bbox="422 963 1412 1041" data-label="Text" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; text-align: center;"> <p>学習課題：自分が育てたい植物をもっと元気もりもりにするお世話を考えよう</p> </div> <p>まずは、自分が育てている植物について継続して記入している<b>比べっこカード</b>を見て、どんな世話をすれば植物が喜ぶかを考えました。そして、考えた世話について、実物とカードを基に友達と話し合いました。そうすることで、友達と世話の仕方を比較する中で、自分の世話の仕方を見つめ、よりよい世話の工夫を工夫していこうとしていきました。そして、話し合ったことを基に支柱を立てたり、肥料をあげたりと植物の様子に合わせて世話の仕方を考えました。</p> <div data-bbox="422 1310 790 1523" data-label="Text" style="border: 1px solid orange; border-radius: 10px; padding: 5px;"> <p>僕のミニトマトは、背が伸びたからぐらぐらして倒れそう。だから、支柱を立ててあげるんだよ。虫もとってあげるんだ。</p> </div> <div data-bbox="798 1299 1061 1523" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1069 1310 1412 1523" data-label="Text" style="border: 1px solid orange; border-radius: 10px; padding: 5px;"> <p>トウモロコシには、ナスみたいな支柱はなくてもいいね。でも、虫がついているよ。私も、とってあげよう。</p> </div>
<p>〈課題解決後〉 4 学習を振り返り、次の課題を見いだす。</p>	<p>本時の学習で、できたことを確認した後、「自分が育てたい植物の世話ができるから、次は植物にその世話でよかったか聞いて確かめたいな」「野菜に支柱を立ててあげられたから、次は、これからどんどん大きくなるアサガオにもしてあげたいな」などと、次時にしたいことを表出しました。</p> <div data-bbox="462 1736 1141 1836" data-label="Text" style="border: 1px solid orange; border-radius: 10px; padding: 5px;"> <p>今日はキュウリの喜ぶ世話できてよかったよ。次は、この世話でいいか植物に聞いて確かめたいな。</p> </div> <div data-bbox="1141 1668 1420 1859" data-label="Image"> </div>
<p>考察</p>	<p>育てている植物とカードの二つを用いて友達と世話を比べさせたが、実物と世話の仕方が一目で分かるよう、植木鉢に世話の仕方が分かるシールを貼り付ける等の工夫をすれば、より世話の仕方に焦点化した話し合いになるのではないかな。</p>





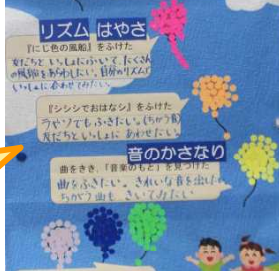
第3学年 **音楽科**「飛べ 私の風船 ～『リコーダーは歌う』『シシシでおはなシ』『にじ色の風船』～」  
 学習指導者 溝渕 佳子

**主張点**  
 自分の思い浮かべた様子をリコーダーの演奏で表すために、「ソ」「ラ」「シ」の運指やタンギング等の技能をスモールステップで高めていきました。さらに、速度やリズム等を変化させながら工夫を伝え合う活動を繰り返すことで、演奏の技能を高めながら思い浮かべた様子を演奏で表す楽しさを味わえるようにしました。

**前時までの学び**  
 子供たちは、リコーダー曲『にじ色の風船』の速度やリズムを様々に変えて思い浮かべた様子を表すことを楽しみました。思いを表して吹く楽しさを味わった子供たちは、「友達と一緒に音を重ねて吹いてみたい」と意欲を高めていきました。

**〈課題設定以前〉**  
 1 学習課題を確認する。  
 前時を振り返る場面で、私の風船の掲示やカードを基に、今までにできたことと、前時に考えた本時したいことを想起し、本時の課題を設定しました。


前の時間は、自分で『にじ色の風船』の速さやリズムを変えて吹いたよ。今日は、友達と一緒に、風船が一齐に飛ぶように吹きたい。



学習課題：自分の『にじ色の風船』を思い浮かべて吹こう

**〈課題解決中〉**  
 2 ペアやグループで音の重ね方を工夫し、演奏する。  
 自分の思い浮かべた様子に合うように、速度・リズム・音の重ね方についての工夫を考え、カードに記入しました。ペアと一緒に吹いて工夫の効果を確認した後、他の友達とカードの工夫を比較しながら、演奏を聴き合いました。そうすることで、音楽を特徴付ける要素を様々に変化させれば自分の思い浮かべた様子に近づけることができると気付いた子供たちは、自分の工夫を再考していきました。


たくさんの風船がふわふわ飛ぶ様子だよ。僕が先に吹いて、友達が後から吹くよ。聴いてみてね。



ゆっくり吹いているだけだと、追いかけてしているように思えないなあ。友達みたいに、順番に吹いてみたら表せそうだよ。

**〈課題解決後〉**  
 4 本時の学習を振り返り、次の課題をカードに書く。  
 本時の学習で、できたことを確認した後、できた理由や次時にしたいことを私の風船に記入し、友達と伝え合いました。全体で交流する中で、本時の学びを「音楽パワー」「友達パワー」として板書に価値付けることで、自分たちの学びについて見つめ直していきました。

友達と工夫して吹いたら、いろいろな風船が舞い上がっている様子が表せたよ。次は、みんなで聴き合いたいな。



**考察**  
 自分で工夫した後、すぐに友達と聴き合う活動に移ったため、交流の目的が曖昧になってしまった。交流の仕方をモデリングし、何を比較するのかを明確にしてから交流した方が、より深い学びにつながったと考えられる。



<p>主張点</p>	<p>導入で瀬戸内国際芸術祭の作品を鑑賞し、自分たちも、見慣れた場所を新しい空間につくり変え「附坂小芸術祭2019」をしたいと意欲をもち、造形的な見方・考え方を働かせ、発想や構想を繰り返し工夫していきました。さらに、友達との鑑賞を繰り返してイメージを広げ、新しい工夫を見付けられるようにしました。</p>
<p>前時までの学び</p>	<p>それぞれが選んだ場所の形や色、空間の特徴等から感じたことを基に、材料を選んで加工したり組み合わせたりして、場所を変身させてきました。そして、「友達と見せ合って、もっと工夫を考えたい」という意欲を高めていました。</p>
<p>〈課題設定以前〉 1 学習課題を確認する。</p>	<p>前時までの活動を振り返る場面で、<u>変身までの道のり</u>の掲示を基に、今までにしてきたことと本時したいことを想起し、本時の課題を確認しました。</p> <p>前の時間は、滝の形をねじったり曲げたりして変えたら、もっと面白くなったよ。友達に工夫を紹介したり、アイデアをもらったりして、つくる活動に生かしたいな。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px auto; width: 80%;">                 学習課題：友達と見せ合って工夫を考え、変身させよう             </div>
<p>〈課題解決中〉 2 変身の経過を鑑賞し合う。  3 場所をもっと工夫して変身させる。</p>	<p>これまでの活動で、場所を少しでも変身させるごとにタブレットの記録フォルダに写真を撮り記録してきました。それらの活動の経過の写真を他の友達と見せ合いながら、なぜそのように変身させてきたのか、形や色などの造形的な特徴を視点に工夫のよさを伝え合う<u>鑑賞タイム</u>を行いました。そうすることで、自分や友達の工夫のよさに気付いた子供たちは、新しい工夫を見付けて、次の製作活動へつなぎ、場所をさらに変身させていきました。</p> <p>秋のイメージだから、本物のドングリや松ぼっくりを飾りにしたよ。窓枠の奥まったところを生かして、滝が出てくるようにしたよ。</p> <p>本物の材料を使ったり、場所の特徴を生かして素敵だね。私たちも、廊下の天井から魚を吊るして水族館の中にいるみたいにしたよ。</p>
<p>〈課題解決後〉 4 本時の学びを振り返る。</p>	<p>本時の学びを「自分のよさ」「友達のよさ」「次にしたいこと」の観点で振り返りシートに記入し、友達と伝え合いました。全体で交流する中で、教師が構造的に板書することで、自分たちの学びについて見つけ直していきました。</p> <p>今までよりももっと空間を広げて考えることができたよ。友達は使う色を増やして、自然の森の感じにしていたよ。次は滝の形をもっと変えたいな。</p>
<p>考察</p>	<p>変化の過程を写真で記録することで、場所の変化と自分の活動を明確に振り返ることができ、次の活動を考えやすかった。鑑賞し合う際、誰と何を話すのか明確に示すことで、より効果的な鑑賞タイムになったと考えられる。</p>



<p>主張点</p>	<p>「ご飯とみそ汁」の題材と関連させながら学習を進め、調理実習で使う材料を実際に購入する場面を設定しました。題材での学びを生かす実践的な場を設定することで、実生活で活用する力を養いたいと考えました。</p>
<p>前時までの学び</p>	<p>「買物名人になろう」と学習計画を立て、物や金銭の使い方や買物の仕方を考えました。前は、ノートの値段や品質、環境への配慮などの情報を集めて整理し、様々な情報を基に商品を比べて選ぶことの大切さに気付きました。</p>
<p>〈課題設定以前〉 1 学習課題を確認する。</p> <p>〈課題解決中〉 2 自分が選んだみそとその理由を話し合い、使いたいみそを決める。</p>	<p>題材の始めに立てた学習計画と既習事項を位置付けた買物名人への道を振り返り、学習課題を確認しました。</p> <p>前の時間は、ノートの選び方を考えました。値段やデザインなどを比べて選びました。今日は、調理実習で使うみその選び方を考えたいです。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;"> <p>学習課題：商品から情報を集めてみそを選ぼう</p> </div> <p>A～Dの4種類のみその中から、自分の目的に合ったみそを選び、選んだみそとその理由をBecauseシートに表し、シートを見せ合いながら、グループで話し合いました。話し合いを通して、ノートを選ぶ時にはなかった「健康」や「余らない量」「地産地消」等の視点を見付け、調理実習で使うみその選び方についての考えを深めていきました。</p> <p>健康について考えているのは同じで、僕は、有機JASマークがついているからDのみそがいいと思ったよ。調理実習で使う量は1班60グラムだから、Bより量が少ないDの方がいいと思ったよ。</p> <p>僕は体にいいみそ汁が作りたい。Cの減塩のみそがよさそうかな。</p>
<p>〈課題解決後〉 3 本時の学びを振り返る。</p>	<p>BeforeAfterタイムでは、授業前後の自分の考えを比べ、「変わった考えとその理由」の観点で学習を振り返りました。全体交流で教師が本時の学びを「買物名人への道」に位置付けた後、「生活に生かしたいこと」の観点で振り返りました。</p> <p>友達と話し合っ、始めは考えていなかった健康によいかどうかという視点で考えられたよ。これから食べ物を買うときは、健康のことも考えて選びたいな。</p>
<p>考察</p>	<p>みその実物から情報を収集して比較検討するのに時間がかかってしまい、話し合いの時間が短くなってしまった。本時気付かせたい新たな情報以外は、表で示して提供することで、話し合いがより深まったのではないかな。</p>





第5学年 **体育科**「目指せ ONE TEAM ～ボール運動（ゴール型）～」

学習指導者 山本 健太

<p>主張点</p>	<p>初めのリーグ戦のデータを基に、2回目のリーグ戦に向けてチームの課題を分析・改善する時間を位置付け、意欲的に課題解決に取り組めるようにしました。</p>
<p>前時までの学び</p>	<p>子供たちは、ファーストリーグを行う中で、ボールを持つ人がランをしたりパスをしたりするだけでなく、フリーの人がサポートを行うことで攻撃ができることを学んでいました。セカンドリーグに向けて、「自分のチームの特徴を知りたい」「考えた作戦がうまくいくように練習したい」という思いを高めていました。</p>
<p>〈課題設定以前〉 1 学習課題を確認する。</p> <hr/> <p>〈課題解決中〉 2 データを基に自己やチームの特徴を捉え、作戦について話し合う。</p> <p>3 練習試合を行う。</p>	<p>PDCA課題解決サイクルを示し、学習課題設定の理由を確認しました。「自分のチームの課題を見付けたい」「もっと点を取るために、攻撃の練習が必要」という前時の意識を想起することで、課題の妥当性を感じていました。</p> <p>それぞれのチームの課題は違うから、データを分析して課題に合った作戦を見付けたい。</p> <p>学習課題：もっと得点を増やすために、チームにあった作戦を見付けよう</p> <p>ファーストリーグで収集してきた「得点」「攻撃回数」「パス回数」「パス方向」等の試合データを基に、「ランで前に進めていないから、攻撃回数が少なくなっている」「後ろ方向へのパスが多くなって、攻撃に時間がかかっている」などのチームの課題を捉えていきました。それらの課題を解決するために、どんな攻撃を行えばよいか、攻撃の約束事掲示板を用いて話し合っていました。自分のチームの課題に合った作戦になっているか、自分の考えた作戦とその理由を伝え合いながら、攻撃の仕方を約束事として共通理解し、考えを深めていきました。</p> <p>試合を行う中で、話し合った作戦を試しながら、さらによりよい攻撃の仕方について考えながらプレーし、トライを決める姿が見られました。</p> <p>すぐにパスをもらえるように、ボールを持っている人の近くでサポートしていこうよ。</p> <p>パスは後ろに投げたら攻撃に時間がかかってしまうから、横のパスを増やしていけばいいと思うよ。</p>
<p>〈課題解決後〉 4 本時の振り返りをする。</p>	<p>本時の課題を解決する中で見付けた、タグラグビーの魅力について「する」「みる」「支える」「知る」の観点ごとに振り返っていきました（魅力発信リーフレット）。特に本時では、「みる」や「支える」の観点で仲間と協働することのよさに気づき、セカンドリーグへの意欲を高めていきました。</p> <p>ボールを持っている人の周りに行って、みんながサポートしながら攻撃してトライできました。</p>
<p>考察</p>	<p>課題を捉えて作戦を選択し、試合の中で試行錯誤する姿は見られた。話し合った作戦が試合で上手くいったのかいかなかったのかを振り返り、次のゲームに生かす対話を設定することでメタ認知がさらに促されたであろう。</p>






<p>主張点</p>	<p>デジタル教材とママーず（保護者による英語学習ボランティア）による発音指導を併用し、単元を通して少しずつ単語の発音等に慣れ親しめるようにしました。</p>
<p>前時までの学び</p>	<p>色やスポーツ，食べ物等の英語での言い方やI like ~.のような表現方法に親しんできました。前時にはデジタル教材によって，Do you like ~?で好みを尋ねることを学び，実際に好みを聞いてみたいという気持ちを高めました。</p>
<p>〈課題設定以前〉 1 好みを尋ねる練習をし，学習課題を確認する。</p> <p>〈課題解決中〉 2 HRTとママーずのやり取りを見て，よりよい交流の仕方を知る。</p> <p>3 友達の好みを予想し，聞き合う。</p>	<p>「自分の好みを紹介しよう」という目標に向かって1時間目に立てた学習計画に沿って，本時することを確認しました。デジタル教材を使って登場人物の好みを聞き取る活動を通して，友達に好みを聞く活動へとつなぎました。</p> <div data-bbox="459 712 804 900" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="820 725 1394 887" data-label="Text"> <p>登場人物の好みを聞き取れました。今日は，友達の好みを聞いてみたいです。次の時間に何について好みを紹介するか考えるために，友達の好みを覚えておきたいと思います。</p> </div> <div data-bbox="427 904 1394 990" data-label="Text" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>学習課題：友達に好みを聞いてみよう</p> </div> <p>その後，お互いの好みについて友達と交流するインタラクティブタイムを設けました。友達がしている表現方法を取り入れながら，互いに好みを尋ね合う中で，友達と自分の好みの違いに興味をもち，より多くの友達とやり取りをしようと意欲的に活動できました。</p> <div data-bbox="1027 1093 1417 1267" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="427 1146 1075 1258" data-label="Text"> <p>ママーずみたいに，Yes, I do.と言った後に，I like ~.と言うと，丁寧で分かりやすいと思ったよ。ジェスチャーをするのもいいね。</p> </div> <div data-bbox="427 1451 1075 1527" data-label="Text"> <p>友達がYes~.の後に，I like ~.と言っていたよ。僕もきちんとするようにしよう。</p> </div>
<p>〈課題解決後〉 4 本時の学びを振り返る。</p>	<p>本時の学習を振り返り，「友達とたくさんやりとりできた」「発表や活動にとりくめた」「先生の発音をよく聞けた」の三つができていたかどうかを考えました。できていたと感じたものにはOを付ける活動を，外国語活動の時間を通して行うことで，自分が継続してできているものに気付くことができるようにしました。</p> <div data-bbox="1181 1662 1417 1872" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="427 1787 1171 1863" data-label="Text"> <p>今日は友達とたくさんやり取りができたよ。みんなの好みを聞くことができてよかったよ。</p> </div>
<p>考察</p>	<p>もっとママーずを活用し，HRTとママーずの英語によるやり取りを様々な形で繰り返し見せていくことで，子供たちの中で発話したいという思いが強くなり，自然な対話や必要感のある交流ができるのではないかと考えました。</p>



第2学年 **道徳科** 「みんなのことを考えて【規則の尊重】『黄色いベンチ』」

学習指導者 好井 佑馬

<p>主張点</p>	<p>公共物を使う際に、きまりを守って使う大切さに気付くとともに、きまりではなくても、みんなのことを考えて使うことの大切さに気付けるように、汚れた靴でブランコに立って乗ることについて考え、自分の生活経験と結び付けながら、友達と対話を行うことで、考えを深めていけるようにしました。</p>
<p>本時につながる生活経験</p>	<p>紙飛行機を飛ばす経験を行うことで、「高いところから飛ばすと楽しい」とベンチに上がってしまった教材文の主人公の気持ちに共感して、きまりを分かっている、自分の思いを優先してしまった気持ちを理解できるようにしました。</p>
<p>〈導入〉 1 身近な公共物を確認し、めあてを設定する。</p>	<p>学校にあるフラフープがきれいに片付けられている写真と片付けられていない写真を比べました。きれいに片付けられるようにしたいという思いをもって、自分の生活と関連付けながら、みんなの物を使うときに大切にしたい心について考えたいという思いを高めていきました。</p>  <p>みんなの物がぐちゃぐちゃにならないように、大切にするにはどうしたらいいか考えたいな。</p>
<p>学習課題：みんなの物を使うには、どんな心が大切なのだろう</p>	
<p>〈展開〉 2 女の子の姿を見て、はっとした二人の心情を考える。 3 ブランコに立って遊んでいたことについて考える。</p>	<p>泥だらけの靴でブランコに立って遊んでいることについて、自分だったら「立つか」「立たないか」という立場を心情円盤を用いて表し、考えた理由をペアで話し合いました。見えない心の部分を視覚的に比較できるようにすることで、友達の考えの理由を知りたいと主体的に話し合っていました。</p> <p>ブランコを立ててこいたら、風が当たって気持ちいいね。</p> <p>次の人の事を考えて、ブランコを使った後に拭くのもいいね。</p> <p>自分が楽しい気持ちは分かるけど、次の人が座ると思ったら立つのはよくないと思うな。</p> 
<p>〈終末〉 4 自分の生活を振り返り、これからの生活の仕方を考える。</p>	<p>いろんな遊具の使い方を周りで見ている小さい子にもまねしてもらいたいから、大切に使っていきたい。</p> <p>いいね。みんなの物は、みんなが笑顔で使えるようにしていきたいな。</p>  <p>複数提示した生活場面の写真と、本時で考えたことを基に、具体的な場面を想起しながら、自分の生活を振り返りました。「今までの自分（できていたこと）」と「これからの自分（頑張りたいこと）」の二つの観点で振り返りました。その後、ノートの記述を見せ合いながら、互いの考えを認め合う相互評価を行いました。</p>
<p>考察</p>	<p>心情円盤を用いた話し合いの場では、自分の心情円盤の操作、友達との比較、理由の話し合いと、活動が多くなっていった。話し合う時間を十分に確保すれば、さらに、対話によって自分の生き方について考えを深められるのではないかと。</p>





# 参観者アンケートの結果について

本年度 31 本の授業公開を行いました。参加された先生方(延べ約 300 名)の声をまとめました。各質問(はい)4—3—2—1(いいえ)の4段階で回答していただいています。

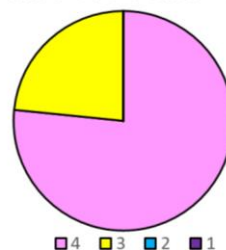
## 1 公開授業について

Q:公開授業を参観されて、今後、ご自身の実践に活用してみようと思うことはありましたか。

A:子供がメタ認知を働かせて考えをよりよくしていくために、他の班と比較できる環境をつくるのが大切だと感じた。

A:振り返りの観点(自分の考えの深まり・友達の意見で参考になったこと・生活とつないで・次にしたいこと)などを示すことがとても大切であると改めて感じた。

実践に活用してみようと思うことがあった



肯定的回答率 100%

## 2 授業討議について

Q:授業討議に参加されて、参考になったことや、今後活用してみようと思うことはありましたか。

A:学校の理論に沿って、子供の具体的な姿を通して、授業を振り返り、評価し、改善につなげていた。

A:「個の見取りシート」を用いて、子供一人一人の1時間の様相や考えを見取っていたので、具体的な議論が行えた。

A:感想や意見を言うだけでなく、代案を出していたので、改善の見通しが立った。

授業討議について活用してみようと思うことがあった



肯定的回答率 97.3%

## 3 合同研究集会について

本年度は三つの学校が、本校の授業及び授業討議に学校全体で参加してくださいました。

今後も研修の一貫として附属小学校を活用していただければと思っています。



# わくわく授業づくりワークショップについて

開催日	内 容	参加人数
6/21 7/5	A:国語科の授業づくり ~「読むこと」の単元展開について~ B:外国語の授業づくり ~授業展開と活動アイデアについて~	44名
8/1	ユニバーサルデザインの授業づくり~国語科と音楽科の授業実践を基に~	43名
8/23 10/4	A:社会科の授業づくり ~子供が楽しい社会科授業を目指して~ B:理科の授業づくり ~少しの工夫で楽しい理科授業に~ C:図画工作科の授業づくり ~子供も先生も楽しい!版画指導あれこれ~	52名
1/24 2/21	A:算数科の授業づくり ~明日から使える教材づくりや発問の仕方~ B:体育科提案 ~絶対成功!子供が主役の運動会(ダンス・組立体操)~ C:道徳の授業づくり ~子供が変わる教師のしかけ(板書・発問)~	103名



# わくわく授業づくりワークショップ

## 国語科の授業づくり

新学習指導要領を基に、「読むこと」の単元をどのように構成していけばよいのか、という単元づくりのポイントについて低学年と高学年の実践事例を基に確認しました。そのポイントを大事にしながら、参加されている先生方それぞれの2学期以降の実践について実際に単元構成を考えていきました。参加されている先生方同士や本校の教員と授業について話すことを通して、今後の実践をよりよいものにしていきました。



2年目で国語の授業をどのように進めたらよいのか全く分からない中で、授業づくりの見通しがもててよかったです。

気軽に質問もでき、今後の授業について考えることができ、とても有意義な時間になりました。また参加したいです。

国語の単元をどのようにつくっていったらよいのか、具体例があってよくわかりました。また、自分の実践についての悩みを相談できたので、教えてくださったことを生かして授業をしたいです。



## 外国語科の授業づくり

まず、実践を基に、実際に授業を行いながら、どのように外国語科の授業づくりを行っていけばよいのか、一緒に考えていきました。単元を構成するときには、「話す・聞く」から「読む・書く」へ、子供の実態を見ながら活動を進めていくことの大切さを確認しました。また、絵カードなどを使いながら、子供が自分の言葉で会話できるようにすることや、定型文だけでなく、相手の話に対して反応を入れながら、自然な会話になるようにすることも大切だということを知ることができました。また、様々な学習内容で使える活動を体験しながら、活動のポイントや、授業の中でどのように活用していけばよいのかを考えていきました。



子供の意識に合うように場の設定を工夫することが大切だということがよくわかりました。これから、単元をつくる時に生かしたいです。

日々、外国語の授業をどうするのか悩んでいます。しかし、今回のワークショップの中で、カードを用意しておくことや、子供たちの言いたい表現を文の中に入れ込んでいくことなど、より授業が楽しくなる工夫を知ることができました。

たくさんのゲームを紹介していただきとてもうれしいです。子供たちが楽しめるゲームをたくさん知っていると教師も楽しくできそうです。参加型でとても楽しかったです。



### やり取りを充実させるために ALT（マザーズ）とやり取り のモデルを示す

やり取りで大切なことを共有  
例：ジェスチャー、繰り返す  
うなずく、反応するなど



### 子供のやり取りのよい例 を全体に広げる

自分と比べて、よいところを  
考えて取り入れようとする。  
(メタ認知)





## ユニバーサルデザインの授業づくり

### 国語科の授業づくり

昨年度の研究会での実践を基に、特別支援教育のポイントについて確認しました。机上にお気に入りの本が出たまま授業を進めてしまうと、どうしても机上の本に意識が向いてしまって、友達や教師の話に耳を傾けることが難しくなる子供がいます。その際に、教師は話を聞いていない子供を注意するのではなく、話をする前に机の中に本を片付けさせるなどして、どうすれば聞くことに集中できるのか、学習環境を見直すことが大切だということを確認しました。また、例えば書くことが苦手な子供に対しては、自分で書くことを強要するのではなく、教師が代筆したり音声記録に残したりする等の方法もあるので、教師は一定の枠で子供たちを指導するのではなく、授業のねらいが何かを踏まえた上で一人一人の特性に応じた支援を考え、子供たちが楽しく主体的に取り組める授業づくりを心掛けることが大切だということも教わりました。



### 音楽科の授業づくり

昨年度の研究授業や、普段の音楽の授業を基に、音楽科で意識しておくべき特別支援教育の視点を意識した授業づくりのポイントについて確認しました。例えば、聴覚過敏の子供にはイヤマフを準備したり、音楽から様々な想像を広げるような場面では、カーテンを閉めて外的刺激を軽減したりする等の方法があります。また、1時間の間に、体を動かす場面を取り入れることで、多動傾向のある子供にとって集中しやすい環境になることも教わりました。さらに、授業の流れとはあまり関係のない質問や意見が出たときには、一度受け入れてから、「今は〇〇について考えているんだっただね」と軌道修正を行うことの大切さも教わりました。

#### ユニバーサルデザインを生かした 授業づくりをするときのポイント

- ・ クラスのルールは明確になっているか
- ・ 刺激量の調整
- ・ 教室の構造化
- ・ 時間の構造化
- ・ 授業展開の構造化
- ・ スモールステップ

東北大学の教授や学生さんたちが、  
テレビ会議で参加してくださいました。



### 特別支援教育の視点について（本校校長 坂井聡）

通常の学級に在籍している特別な支援が必要な児童生徒は、文部科学省の調査で 6.5%程度いるとされています。それは、本校でも例外ではありません。学ぶ上で配慮が必要な子供がいるということです。これまでは、それは個人因子の問題として考えられ、教師側の指導の工夫についてはあまり議論されてきませんでした。なぜならば、教師の求める姿についてくるのが子供であるというような先入観が強かったからではないかと思います。ところが、その先入観をもったままでは学習の効果は上がらないのです。授業の本質に迫るとき、優先順位を考え、授業に参加できるかどうかを優先することが重要なのです。授業で活動できることが重要なのです。そのため工夫は、授業者が考えることで、子供たちが考えることではありません。本校の実践は、通常学級での工夫を提案しています。

～ 参加者からの声 ～

- ・ 教師がもつ常識とか「こうあるべき」と思っていることを改めて考え直す機会になりました。
- ・ 支援を必要とする子が安心して学習に取り組めるよう、支援の仕方を工夫したいと思いました。
- ・ 「指導はきっちり、評価は寛容に！」を心掛けていきたいです。



# わくわく授業づくりワークショップ

## 社会科の授業づくり

中学年と高学年の社会科の授業づくりについて話し合いました。学習指導要領を基に、社会科でどのような資質・能力を育むのかを確認した後、中学年では、子供たちにとって興味深い教材で、より思考力が育つ単元構成の工夫を考えました。また、高学年では、教科書の資料を効果的に使って楽しい授業ができる方法を考えました。

社会科では、資料準備が大切で、必要不可欠だと分かりました。教材研究をしっかりと行い、資料化していきたいです。

資料を出す順番や見せ方一つで子供たちの感じ方が違ってくることに気がきました。

中学年で、育成すべき資質・能力の具体が少し分かってきました。学習指導要領をしっかりと読んでいきたいです。



## 理科の授業づくり

4年生「物のあたたまり方」と6年生「電気とわたしたちの暮らし」の実践を基にして、理科の授業づくりをどのように行っていけばよいのかを一緒に考えていきました。実際に実験を行いながら、実験の際に気をつけるポイントや教材・教具の工夫、子供たちの学びを深めるためのポイントなどについて確認しました。

気軽に質問もでき、今後の授業について考えることができ、とても有意義な時間になりました。また参加したいです。

教材を工夫することで、子供の学びが深まることがよく分かりました。実践してみたいです。

班番号を書いたシールを貼らせるなど、少しの工夫で、より妥当な考えをつくり出すことにつながるのだと分かりました。



## 図画工作科の授業づくり

1年生から6年生までの版画指導における、基本的な事項について、作例を基にポイントを確認していきました。その後、実際に紙版画や木版画を製作することを通して、指導の際の留意点を確認したり、子供たちがどのような困り感をもつかを実感したりすることができました。

版画指導のこつが分かりました。実際に自分で製作すると、子供たちのつまずきも予想できてよかったです。他の先生にも伝えたいです。

構図のとり方や彫刻刀の使い分けなどが、分かりやすかったです。実際に製作することで、授業で使える教具もできました。

材料や作品例をたくさん用意していただき、技法を教えていただけよかったです。





## 算数科の授業づくり

数学的な見方・考え方を働かせる算数の授業づくりを行うために、新学習指導要領の読み方や数学的な見方・考え方について、子供たちの具体的な姿を通して確認しました。また、子供たちの考えの取り上げ方や表現のさせ方を確認し、数字カードを使った教材で実際に活動しながら、子供たちの数学的な見方・考え方を引き出す発問の仕方を考えました。



「算数・数学の問題発見・解決の過程」についての説明が、大変分かりやすく、授業づくりの際に生かしたいと思いました。



ゲームを通して数学的な見方・考え方を働かせることが分かり、授業が楽しくなると思いました。自分も参加して楽しめました。

「どうやって考えたの?」「前と同じようにして考えたんだね」と、声をかけることで、数学的な見方・考え方を働かせることができると学びました。発問や助言を工夫し、子供の考えを広げていきたいと思えます。

## 体育科の授業づくり

運動会のダンス・組体操を構想していく際のポイント（①子供たちの発達段階や実態に応じて、どのような動きや隊形にするかを検討すること②イメージを動きにつなげる教師の言葉かけ③安全な組体操・ダンスにする配慮事項）を確認していきました。参加された先生方は、実際にダンスの創作や集団演技を行う中で、必要な準備・指導計画の大切さや教師の言葉かけの重要性を体感していきました。ぜひ来年度の運動会に生かして欲しいと思えます。



ダンスの構成表をいただけただので、実際にダンスを創作する際に役立てたいと思えました。来年の運動会で子供たちが輝いてほしいと思えます。



擬音語や擬態語を工夫した教師の言葉かけによって、子供たちの動き方が大きく変わることが分かりました。

難易度の高い技や高さのある技を用いなくても、広がりや連鎖を意識することで美しい演技になることが分かりました。

## 道徳科の授業づくり

「特別の教科 道徳」の評価における六つのポイント（①数値による評価×→記述式○②個々の内容項目ごとではなく、大きくくりなまとまりを踏まえる③子供がいかにか成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価④学習活動において子供がより多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかといった点を重視⑤発達障害等のある子供が抱える学習上の困難さの状況等を踏まえた指導及び評価上に配慮⑥調査書への記載や、入学者選抜の合否判定に活用×）を日々の授業や子供たちとの関わりの中でどのように生かしていくのかを中心に研修を行いました。

さらに5年生の教材「手品師」を用いて模擬授業も行いました。参加された先生方は子供と教師、二つの視点で研修しました。その中で、発問（主発問・補助発問）の在り方等、明日からの授業づくりにつながる具体的なポイントを考えていきました。



実際に授業を受けて、「他の人はどんな考えなのだろう」や「自分の考えは本当にこれでいいのかな」等を真剣に考えました。自分の生き方を見つめ、深める授業のヒントをもらいました。



模擬授業を受ける中で、授業について教師と子供、両方の立場から考えられたことで、改めて指導と評価が一体のものであることを体感できました。

教材研究の仕方を具体的に知ることができました。教材の読み方、主発問・補助発問のつくり方など、短時間でできる工夫を知れてよかったです。

## 次年度の研究に向けて

本年度は、課題設定以前、課題解決中、課題解決後の三つの場面におけるメタ認知を促す働きかけを各教科で実践していく中で、働きかけの内容をより具体的にするとともに、その効果の検証方法について探ってきました。

その中で、実際の子供の見取りから、子供たちが、これまでの学習を振り返りながら必要感をもって課題設定をする姿、自分の考えと友達考えの共通点や相違点に着目しながら、自分の考えをよりよいものにしようとする姿、学習の成果・学び方の面から学習を振り返り、新たな課題を見いだしている姿などが見られました。また、メタ認知に関する質問紙調査の結果から「授業の終わりに『自分の考えがどんな風変わったかな』と考えている」かを問うた質問などで、年度当初に比べて肯定率が大きく上昇するなど、働きかけの成果が見られるようになってきました。

これから、たくさんの先生方にそのような子供たちの姿を見ていただき、皆様のご意見を伺いながら、各教科でメタ認知を働かせている姿はどのような姿なのか、その具体的な姿について、さらに研究を進めて発信することができるようにしていきたいと考えています。

次年度は、公開研究授業や教育研究発表会を通して、3年次研究として、互いに磨き合い学び続ける子供たちの姿をお見せ出来ればと思っています。たくさんのご参加お待ちしております。



### あ と が き

教 頭 ではま だいすけ  
出濱 大資

本年度も「互いに磨き合い、学び続ける子供の育成」を研究主題に置き、メタ認知を働かせ自律した学習者を育てられるように、学年の発達段階や一人一人の気質に配慮して授業づくりを行って参りました。本校の研究授業及び授業討議にご参加いただいた皆様から、貴重なご意見を賜りましたこと、「わくわく授業づくりワークショップ」に延べ230名を超える方々にご参加いただき、各校で活用してくださっていることに職員一同感謝しております。

次年度は本校の教育研究発表会の年となります。教育研究発表会で少しでも成果を伝えられるよう、日々、子供たちに寄り添いながら、主体的・対話的で深い学びに向かう授業の実現に向けて教師自身も自らの授業づくりをメタ認知し研究を進めております。第102回教育研究発表会は、令和3年1月29日に開催予定です。常日頃から公立の先生方とつながり、地域により貢献できる研究を目指して参りますので、今後とも、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

### 編 集 委 員

中家 啓吾      尼子 智悠  
竹森 大介      山本 健太  
滝井 康隆      西吉 亮二

令和2年3月16日

香川大学教育学部附属坂出小学校

TEL 0877-46-2692      FAX 0877-46-5218

E-mail sakaide@ed.kagawa-u.ac.jp

ホームページ <http://www.ed.kagawa-u.ac.jp/~sakasho/>

